

当月のS&P MLP 指数の動き

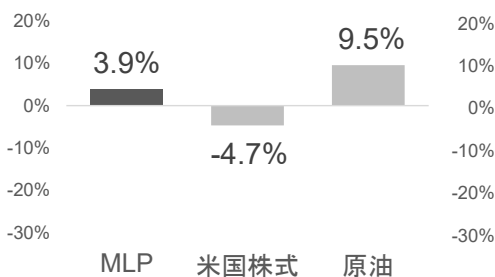
11月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比-6.8%と3ヵ月ぶりの下落となりました。

上旬は、FOMC(米連邦公開市場委員会)において早期利上げが否定されたことやインフラ投資法が成立したこと、そして企業の好調な決算発表などを背景に、米国株式市場が上昇する中、MLPも堅調な推移となりました。しかしながら、中旬以降は、欧州での新型コロナウイルスの感染再拡大に加え、南アフリカで新型の変異株(オミクロン株)が確認されたことを受けて、エネルギー需要減への懸念などから、原油価格が大きく下落し、MLPも下落しました。

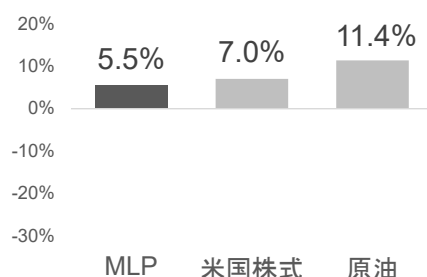
過去3ヵ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

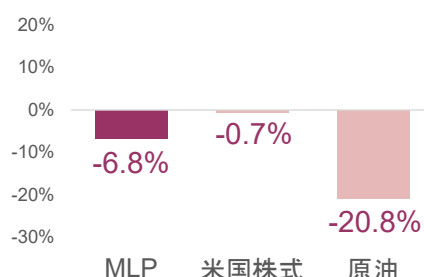
2021年9月



2021年10月



2021年11月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
	2021/11/30	2021/10/31	2021/8/31	2020/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	4,367.73	4,685.50	4,274.32	3,165.76	-6.8%	2.2%	38.0%
プライスリターン	1,041.60	1,129.59	1,038.71	818.13	-7.8%	0.3%	27.3%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	9,558.33	9,625.02	9,433.58	7,759.35	-0.7%	1.3%	23.2%
プライスリターン	4,567.00	4,605.38	4,522.68	3,756.07	-0.8%	1.0%	21.6%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	842.34	887.49	734.78	561.47	-5.1%	14.6%	50.0%
プライスリターン	410.70	436.19	362.26	286.14	-5.8%	13.4%	43.5%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,801.63	1,813.82	1,781.09	1,369.91	-0.7%	1.2%	31.5%
プライスリターン	393.30	396.57	391.67	306.79	-0.8%	0.4%	28.2%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,549.64	1,565.68	1,567.95	1,498.42	-1.0%	-1.2%	3.4%
プライスリターン	75.85	76.98	77.79	77.10	-1.5%	-2.5%	-1.6%
米国10年国債利回り							
	1.44%	1.55%	1.31%	0.91%	-0.11	0.13	0.53
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	66.18	83.57	68.50	48.52	-20.8%	-3.4%	36.4%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	4.57	5.43	4.38	2.54	-15.8%	4.3%	79.9%
米ドル(対円)							
	113.17	113.95	110.02	103.25	-0.7%	2.9%	9.6%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

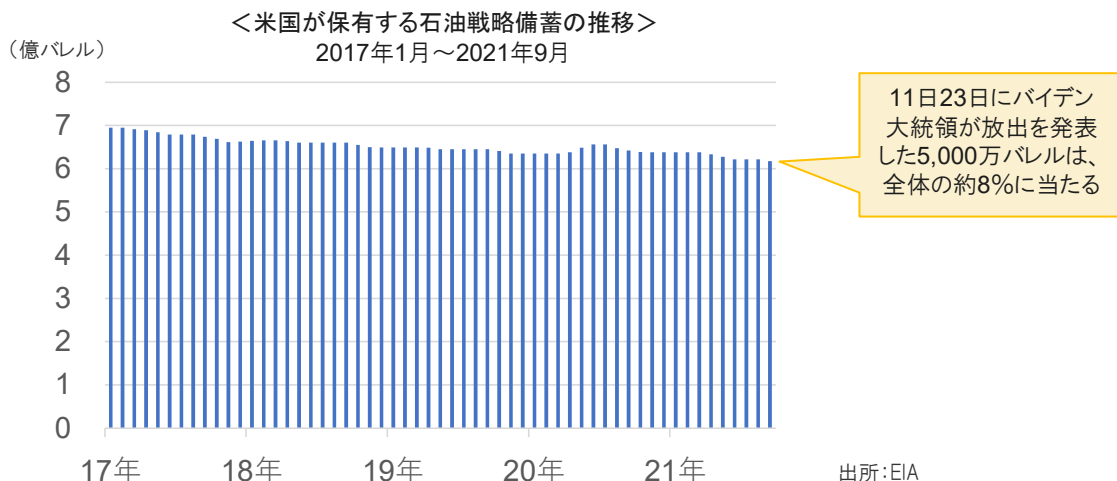
- 4日に開催されたOPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスは、日米などからの増産要請に応じず、7月に合意した、協調減産の規模を毎月、日量40万バレル縮小(増産)するとの方針を12月も維持することを決めた。同決定を受けて、原油先物は買い先行となったものの、引けにかけては利益確定売りに押され、大幅続落となった。翌日、雇用統計の力強い結果などを好感し、原油価格は反発したものの、その後は、バイデン政権が日・韓・印などの同盟国や中国に対し、石油の戦略備蓄の放出検討を要請したとの報道、そして、新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて、欧州においてロックダウン(都市封鎖)による行動制約が意識されたほか、南アフリカにおいて、新型コロナウイルスの従来の変異株よりも高い感染力を持つ恐れのあるオミクロン株が確認されたことなどを受け、需要減への懸念などから、急落した。WTI原油先物価格は、30日に1バレル=66.18米ドルと、8月下旬以来の水準を付けた。
- インフレへの警戒感などから、米10年国債利回りは、中旬に上昇基調となったものの、株式市場においては、好調な決算発表や米インフラ投資法の成立が好感され、主要株価指数が史上最高値を更新した。ただし、下旬には、欧州における新型コロナウイルスの感染再拡大が嫌気されたほか、南アフリカでオミクロン株が確認されたことなどを受け、米国株式市場が大きく下落、米10年国債利回りも中旬の上げをほぼ帳消しにした。

今後の注目点

- 景気および原油需要動向に影響をもたらすとみられることから、オミクロン株の感染拡大状況が注目される

米国の石油戦略備蓄

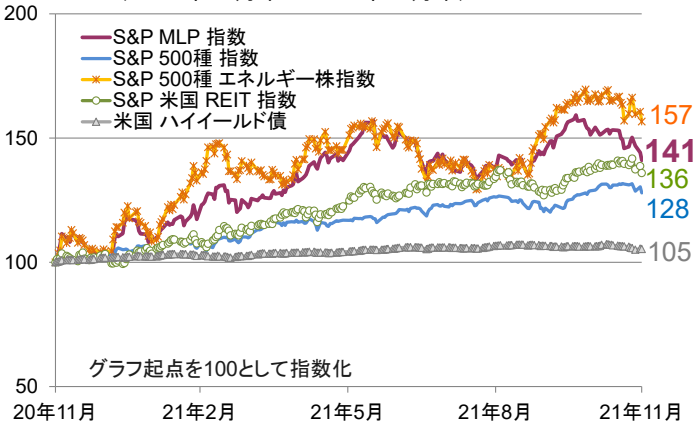
原油価格の高騰が懸念される中、23日、バイデン政権は、日・中・韓・印・英と協調して石油の戦略備蓄を放出すると発表しました。これに伴ない、米国では、6億バレルに近い戦略備蓄のうち、5,000万バレルを段階的に放出する予定となっています。



※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

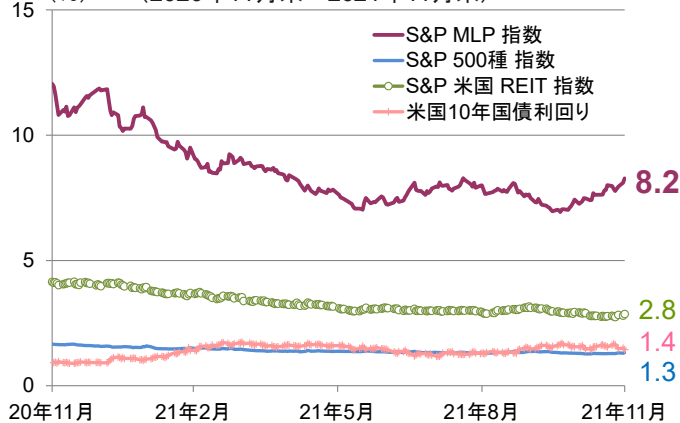
■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)

(2020年11月末～2021年11月末)



■過去1年の各資産の利回り

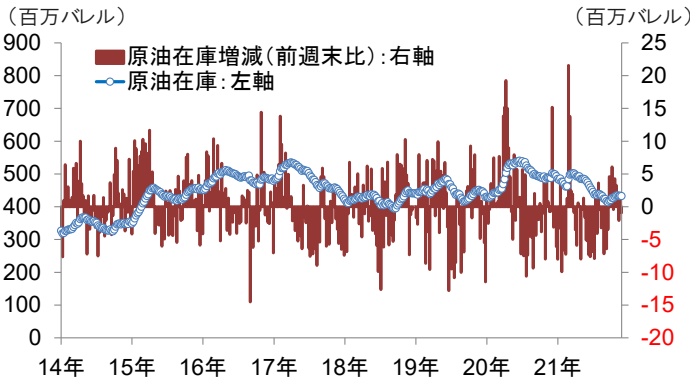
(2020年11月末～2021年11月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

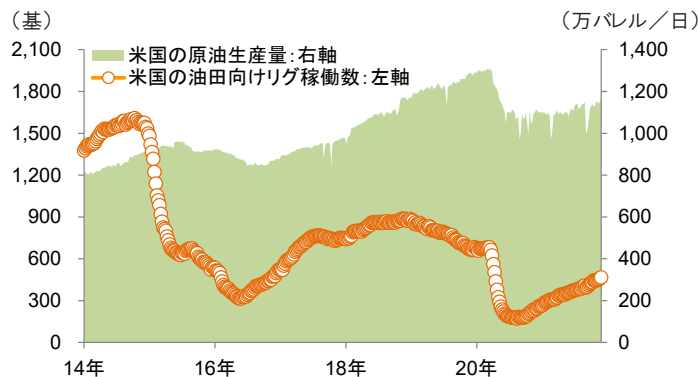
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年11月第4週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2021年11月第4週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減ると)、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2021年11月30日)



* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。